

春から楽しむフラワー&ベジガーデン

もうすぐ春本番。植物たちが輝き出す季節の到来だ。そこで、自宅で気軽にできる花や野菜の栽培から、一日中遊べる、まるでテーマパークのようなガーデンセンターの楽しみ方まで、花と緑を大特集！この春は身近に自然を感じてみませんか。

平林由佳



ラディッシュ



ミニトマト



バジル



上田さん作の春の寄せ植え



寄せ植えは鉢ひとつでつくる自分好みの花空間

「興味はあるけど、うちはマンションだから花を育てるのは難しいかな」なんて思っている人も心配ご無用！「寄せ植え」なら、植木鉢ひとつで、自分好みの花空間を楽しむことができます。

「庭がなくても作れるのが寄せ植えの魅力。春は植物の生命力が強くなるので、だれでも比較的簡単に育てることができまますよ」と話すのはNHK「趣味の園芸」や「あさイチ」などで講師を務める堺市のフラワーショップ「ロベリア」店長の上田広樹さん(45)。繊細で色バランスに優れた作風で、人気が高い寄せ植え作家の一人だ。

日本の住宅事情にもぴったりの「寄せ植え」

寄せ植えは場所を取らずに楽しめるので日本の住宅事情にもあっており、ここ20年ほどで幅広い世代に定着している。近年は、繊細な植えこみが日本独自の文化として注目され、海外の園芸家が視察に来ることも増えているという。



まるで絵本の世界のような店内

一年を通して楽しめるが、やはり花の種類や数が一番そろるのが春。上田さんは「難しく考えず、まずは自分の好きな花を見つけ、それを生かすような植え付け方を考えてみて」とアドバイスする。植物の持つ雰囲気によって、「かわいい」「かっこいい」「モダン」など、いろんなテイストを演出できる。今の季節はネメシアやバーベナ、ペチュニア、カリブラコアといった種類の花が豊富にそろっている。

魅力は無量大花との「共同作業」

植え方は、花や葉を「規則的に交ぜ合わせ、丸くこんもりと茂らせるスタイル」と「不規則に交ぜ合わせ、前後左右で高低差をつけるスタイル」の二つが基本だが、初心者には前者がおすすめという。

「寄せ植えは、自分で植え付ける楽しみと、育つ姿を眺める楽しみがあります。同じ植物でも鉢を変えると雰囲気ガラリと変わりますし、魅力は無限大です。絶好の季節に植物との「共同作業」に親しんでみて」



初心者におすすめは「三角植え」

上から見ると、主役の花の配置が正三角形になるように植える。規則的に植えることで成長の仕方が均一になり、形がぐずれにくく、管理がしやすい。三角形の真ん中には同系色の小花や葉物などを。三角の外側の空いたスペースには、横に広がったり、垂れ下がったりする植物を植えると豪華で鉢と調和しやすくなる。同系色でそろえたら、反対色でメインの花を際立たせるのもよい。

●育て方のコツ

- ◇日当たりは健全な生育に大きく影響するので、1日5～6時間は日の当たる場所で管理することが重要。
- ◇水や肥料は適量を。植物は土が乾燥してくると根を伸ばし、水を吸収しようとする。やや乾燥気味にするとよく育つ。植え付けから10日から2週間、根付き始めたら肥料を。固形肥料は1～2か月に1度、液体肥料は10日～2週間に1度で十分。

フラワーショップ ロベリア
10:00～18:00 火曜定休(営業時間、定休日とも季節により変動あり) 堺市南区和田42-1

ポットひとつから始められる野菜づくり

「自分で育てた野菜で料理をしたり、生活に役立つハーブを育てたりしてみたいなあ」という「花より団子」派に人気なのが、プランターで簡単に野菜や果物が育てられるキット。植物の種、プランター、培土、肥料、育て方マニュアルなどがセットされ、園芸初心者でもベランダの一角などで、すぐ野菜などの栽培が始められる。中でも、1835年創業の老舗メーカー「タキイ種苗」(京都市)が2年前に発売した「UETE」は、

「誰でも安心して育てられる栽培



タキイ種苗の渡部さん(右)と大島さん



ベランダの一角で気軽に栽培が始められる「UETE」

おしゃれに農とつながる

「都心の小さなスペースを大自然に変え、いつでも自然と繋がれる」をコンセプトに、ミニトマトやミニキュウリなどの定番の夏野菜からコーヒード豆など、ちょっとこだわりの植物まで、季節により入れ替わりはあがるが、常時30種類ほどをそろえている。今の季節はラディッシュやリーフレタス、バジルなどのハーブがおすすめだ。

同社の調べでは園芸経験者の8割以上が何らかの失

敗を経験しているというが、通販部企画開発課の渡部尚人さん(43)は「栽培セットは、厳しい発芽試験をクリアした種子を始め精鋭ぞろい。安心して始められます」と胸をはる。「UETE」はプラスチックのプランターではなく、不織布のポットと麻布を鉢代わりに採用するなど、おしゃれでSDGsにもつながるコンセプトが若者や子どもの食育に関心を持つ母親らを中心に支持されているという。

インスタグラムで気軽に園芸相談も

「UETE」で、イチジクの木を育てている50代の男性は「新しい葉っぱが出てきて、育つ様子を見ていると癒やされますね」とにっこり。水やりや肥料のやり方、収穫のタイミングなど、栽培途中で生まれる「こんな時、どうしたらいいの?」という疑問を、作物の状態の写真とともにインスタグラムに上げると、専門のスタッフが返信してくれる。これなら、超初心者でも気軽に野菜栽培が始められそう!

購入はインターネットのサイト(<https://ute.jp/>)から。



「春は花の種類や数が一番多く、寄せ植えを始めるのにおすすめです」と上田さん(堺市のフラワーショップ ロベリアで)

まるでテーマパーク!? 一日遊べるガーデンセンター

園芸に興味がある人もない人も、テーマパークのように楽しめるのが、大阪府茨木市にあるガーデンセンター「ザ・ファーム・ユニバーサル大阪」だ。のどかな里山に広がる約2万2000平方メートルの広大な敷地に、カフェやドッグラン、子どもたちが遊べる公園エリア、珍しい観葉植物がそろった温室、ツリーハウスがシンボルの庭木・花苗の展示スペース、おしゃれなガーデングッズがそろったショップなど、ガーデニングや植物に関する様々な施設が点在する、まさにガーデニングのテーマパーク。見ているだけで豊かな気持ちになれる。

海外の農村!? 動物も闊歩

敷地内を歩いていると、「コッコッコ」とニワトリが横切ったり、温室には微動だにしないフクロウがいたり、屋外ではヤギやウサギにエサをあげることもでき、まるでヨーロッパの農村にいるような雰囲気。3歳と1歳の子とも来ていた大阪府吹田市の30代の女性は「親の買い物で長くなると、子どもは飽きてぐずりがちですが、ここなら子どもも楽しめ、ゆっくり買い物ができます」といい、茨木市の70代の女性は「珍しい植物が

たくさんあるので、1日いても飽きません」と話してくれた。

同施設広報担当の木下和泉さんは「季節にもよりますが、だいたい3000種類ぐらいの植物をそろえています。やっぱり春が一番生き生きする時期。お気に入りの植物に出合うきっかけになれば」と話す。

5月末まではイチゴ園も

また、5月末まではイチゴの摘み取りと持ち帰りができるイチゴ園も開園中。「あきひめ」「紅ほっぺ」「おいCベリー」などを栽培している。

「おいCベリー」を一粒いただく、今まで食べたことがないほど甘く、イチゴの味が濃いことにびっくり! 友人が「なかなか予約がとれないのよ」と言っていたのも納得だ(当日の先着受け付け枠もあり)。イチゴ園で販売しているスムージーは、注文するとスタッフがダッシュで畑に向かい、摘み取ったイチゴで作ってくれた。



ツリーハウスがシンボルの庭木がそろったエリア

ローズムリエに聞く! 花の女王・バラの楽しみ方

花の女王と言えばやっぱりバラ! 春と秋に見ごろを迎えるが、「二番いきいきして美しいのは5月」と話すのは、業界屈指のバラの知識を持つ京阪園芸(大阪府枚方市)のローズソムリエ・小山内健さん。人気テレビ番組「TVチャンピオン」で2回優勝した経験を持つバラのスペシャリストだ。

同社に入社後、かつて「東洋一」といわれたひらかたパークのバラ園の担当になったのがきっかけでその魅力に取りつかれた。最短でも4~5年かかる品種改良で、今までに約20種類の新品種を世に送り出した。

バラの花にも流行が!

小山内さんによると、バラの花もファッションと同じように流行があるという。「昭和時代なら、大きくてとがった花びらに赤や黄色、白とほっそりした色のものが主流。バブル経済崩壊以降は枝ぶりが柔らかく、薄ピンクなど優しい色合いが主流になった。癒やしを求める世の風潮とリンクした」と小山内さん。リーマンショック後は多様化が進み、一目見ただけでは別の花に見えるようなバラも登場した。「時代を映す鏡のようで、本当に面白い」と話す。

各地のバラ園で お気に入りのバラを見つける

バラの育種は、バラ好きだったナポレオンの妻・ジョ

セフィエヌがヨーロッパ中のバラを集めたことが始まりとされる。バラの香りとうとうつとりするような、甘くいい匂いだが、品種改良が進む前はカメムシをつぶしたような匂いのももあったとか。

そんな色々なバラを楽しむのが各地のバラ園。中之島公園や長居公園(いずれも大阪市)などバラの名所はあるが、中でも万博記念公園(大阪府吹田市)にある「平和のバラ園」は小山内さんが監修し、2019年にリニューアル。クラシックなものから現代の品種まで幅広く楽しめるという。ちなみに一番のおすすめ時期はゴールデンウィークから5月中旬まで。香りは気温によって変化するので、午前10時ぐらいがベスト。

「バラは見てよし、かいでよし、育ててよし、で飽きることはない。自分だけの楽しみ方を見つけてみて」と小山内さん。



ミニバラは初心者でも気軽に楽しめる



万博記念公園「平和のバラ園」(写真提供/万博記念公園マネジメント・パートナーズ)



バラの魅力について話す小山内さん(枚方市の京阪園芸で)



小山内さん自信作のバラ「フィネス」

京阪園芸ガーデナーズショップ
9:30~17:00 水曜定休
大阪府枚方市伊加賀寿町1-5

● ミニバラを元気に美しく育てるポイント

初心者はポットのミニバラ栽培が始めやすい。ポイントは
①風通しがよく、陽のよくあたる明るい場所で育てる
②水やりは土の表面が乾いてから(ポットを持って、軽いなど感じた時にたっぷりやる)
「人間と同じで、ちょっと厳しめに育てた方がきれいな花が咲きますよ」と小山内さん。



かわいい雑貨も充実



ヤギにエサやりすることも



色とりどりの花



「ハイドロカルチャー」を教えてくれたスタッフの森さん

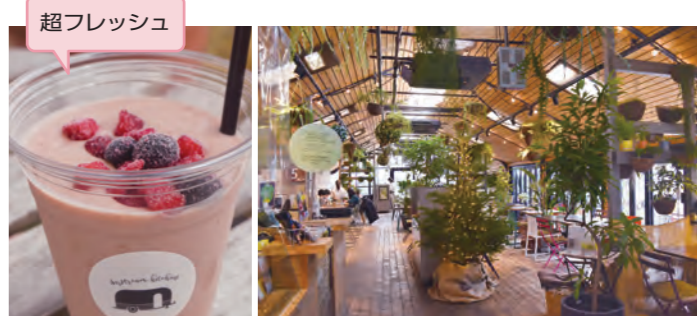


見ているだけで楽しいディスプレイ

● スタッフのおすすめ 手軽に栽培 ハイドロカルチャー

植物を育てるのが全く得意ではない記者。売り場でおすすめの植物を尋ねると、スタッフの森千都歩さん(23)が教えてくれたのがハイドロカルチャー観葉植物。土の代わりに、高温で焼いた粒状の粘土を使って育てる栽培方法で、無機質なので虫の発生がほとんどなく、初心者でも育てやすいという。ガラス製の透明な鉢で育てれば、水やり時期も一目瞭然。これなら、ずばらな記者でも育てられるかも!?

ザ・ファーム・ユニバーサル大阪
10:00~17:00(土・日曜、祝日は18:00まで)
無休(年末年始のみ休み) 大阪府茨木市佐保193-2



イチゴのスムージー 緑いっぱいのカフェ



イチゴ園



読売新聞大阪本社は、農業や食に関わる人々を応援する「農プロジェクト」に取り組んでいます